

日本ミシェル・アンリ哲学会

第十回研究大会 プログラム

今回の研究大会は第十回ということで盛りだくさんのプログラムとなりました。まずアンリ研究で著名なフレデリック・セレール氏をお招きしての講演です。フィヒテの専門家でもあるセレール氏がアンリとフィヒテの関係をめぐっていかなる議論を展開されるのか期待されます。

次にシンポジウムです。ミシェル・アンリが亡くなって15年以上が経ちましたが、アンリと近しかった、またアンリを意識しつつ距離を取っていたフランスの哲学者たちが、アンリの生前から現在にかけて精力的な活動を続けています。そこでシンポジウムではそうした哲学者たちに焦点を当てることにし、「ミシェル・アンリと現代フランス哲学」というテーマで、伊原木大祐氏、柿並良佑氏、本間義啓氏のお三方にご登壇いただくことになりました。マリオン、ナンシー、ロゴザンスキーとアンリの哲学の交わるところで、「肉」や「キリスト教」といった概念をめぐってはたしてどのような議論が展開されるのでしょうか。

講演とシンポジウムに先立っては、tonalité概念に関するミンコフスキーとアンリ、ハイデガーの比較をめぐって研究発表が1本、そしてアンリの文学作品（『若き士官』）をめぐるアトリエが企画されています。

日本ミシェル・アンリ哲学会の研究大会は会員以外の方にも開かれています（参加無料）。ぜひ多くの方の参加をお待ちしています。

期日：2018年6月9日（土）

会場：成城大学3号館 311教室

【研究発表】

10:00～10:50

佐藤愛（立命館大学）

「ウジェーヌ・ミンコフスキーのtonalité——アンリ、ハイデガーとの比較から」

【アトリエ】

10:50～11:40

村松正隆（北海道大学）

「『若き士官』における〈悪〉の諸形象」（仮）

11:40～12:10 総会

12:10～13:20 昼食

【講演】（日本語訳・通訳付）

13:20～14:35

Frédéric Seyler (DePaul University, USA.)

«De l'amour à l'auto-affection : De la Religionslehre de Fichte à la phénoménologie radicale de Michel Henry»

【シンポジウム】

14:45～18:00

テーマ：「ミシェル・アンリと現代フランス哲学」

パネラー

伊原木大祐（北九州市立大学）

「肉への二つのアプローチ——マリオンとアンリ」

柿並良佑（山形大学）

「キリスト教の非／脱構築——アンリとナンシー、否認された出会い」

本間義啓（大阪大学・成城大学）

「誕生、時間、聴声——ロゴザンスキーによるアンリ解釈」

司会 伊原木大祐

日本ミシェル・アンリ哲学会事務局

〒690-8504 松江市西川津町1060 島根大学教育学部 川瀬研究室内

Tel/Fax : 0852-32-6284 E-mail : kawase@edu.shimane-u.ac.jp

ホームページ : <http://www7b.biglobe.ne.jp/~michelhenry/>